

1 事業名

令和元年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー ～ドキドキ わくわく ボランティア・冬～」

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 令和2年1月11日（土）～12日（日）

4 参加者 19名（高校生18名、大学生1名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学・盛岡大学短期大学部

7 内 容

（1）日程（太枠で囲まれている部分は、小学生が参加し、実際に活動を支援する部分）

日時	9:00		9:15		9:30		10:00		11:45		13:00		13:30		14:00		15:00		17:30		18:30		20:00		21:00		21:30		22:00		22:30			
1月11日（土）			参加者受付		開会行事		講義「事業運営及び活動支援についての心構え」		活動内容についての打合せ		昼食		小学生受付		はじめの会		ドキドキわくわく友達作り		ドキドキわくわく創作活動～ワックスボール作り～		夕食		入浴		ドキドキわくわく防災活動～防災かるた大会～		就寝指導		ふりかえり		就寝準備		就寝	
日時	6:30		7:00		7:15		8:30		9:30		12:30		13:30		14:00		14:30		15:30		15:45													
1月12日（日）	起床		洗面・準備		つどい		朝食		荷物整理・退所点検		ドキドキわくわく雪遊び～雪上運動会&そりすべり～		昼食		アンケート記入		おわりの会		小学生解散		講義「活動支援と児童理解」		閉会行事		参加者解散									

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

工藤 祐 幸

企画指導専門職

松本 博 路

事業推進係

日比野 功 宜

小笠原 洋 介

指導補助

法人ボランティア

15名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、「テンパークちゃれんじくらぶ・冬」の企画・運営体制を構築した。企画に携わった法人ボランティアには、事業当日も参加者の前に立ち、具体的な活動支援の仕方や実演、進行場面での補足説明を行うよう働きかけた。その際、セミナー参加者に対する支

援を十分に行うことができるように法人ボランティアの3名を統括リーダーとして配置した。また、セミナー参加者は各班のグループリーダーとして子供たちに寄り添い、一緒に活動しながら体験的に学ぶことができるようにプログラムを構成した。日程については、冬季の実施ということも含め、天候や気温等によるプログラム変更に対応できるように、また小学生と高校生、大学生が十分に関わることができるようにゆとりをもって設定をした。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシと共に岩手県内の大学・短期大学、専修学校、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

子供たちを迎え入れることに備えて、1日目の午前中にセミナー参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。「事業運営並びに活動支援についての心構え」では、セミナー参加者がボランティア活動に必要な基本的スキルについて、岩手山が独自で作成したボランティアガイドブックを活用して講義を行った。さらに、活動内容の打合せにおいて、テンパークちゃれんじくらぶにおける各プログラムの活動計画書を基にして具体的な場面を想定した留意点等を共通理解することで、支援の仕方についての具体的なイメージをもつことができるように工夫した。

また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。さらに、事業の企画運営についての事前説明及び実際の運営を法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、スライドショー撮影ミーティング、生活班ミーティングなど役割を明確にした組織運営体制を敷き、安全に留意したプログラム展開を実践した。具体的には、法人ボランティア13名で担当する班を分担し、セミナー参加者と一緒に子供たちの健康調査票を基にして健康面や心理面、保護者からの特記事項等を把握することで対象者理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供たちが楽しく安全に過ごすことができるように、子供たち7~8人の10班にセミナー参加者を2~3名ずつグループリーダーとして配置するとともに、統括リーダーがフォローできる体制を敷くことで、子供との関わり方等について相談したりアドバイスしたりできるようにした。(補足資料参照)

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、初めは不安もあったが、グループリーダーとして子供と深く関わり、真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。そして、子供たちに積極的に声がけをする中で、子供たちからも話しかけられるようになり、次第に自信をもって子供たちと関わるができるようになるなど相乗効果も見られた。参加者のアンケートからは「参加者の中には、様々な性格の子供たちがいるからこそ、こちらで勝手に一つの印象で決めつけて壁を作るのではなく、自分から歩み寄っていくことが大切だと感じました。」「グループリーダーが二人おり、リーダー間の子供の情報、意見交換、関わって気付いたことの共有はとても大切だと感じました。」「今回初めて参加する側でなく子供たちのリーダーとして参加して、企画する側がどれだけ大変か分かりました。教育に関することに興味があるのでとても有意義な時間になりました。」という声も聞かれ、活動を

通して、リーダー間の情報共有の大切さも含め、参加者各々が新たな気づきを得ており、学びの多いものとなったことが伺える。法人ボランティアとの関わりの中からも、体験活動支援セミナーを入口とした、法人ボランティアの拡充に期待できる場面も多々見受けられた。

9 今後の課題

参加者が、グループリーダーとして子供と関わる中で体験活動の支援に必要なスキルを高めていくことができるように、法人ボランティアによる具体的な活動支援の仕方や実演、進行場面での補足説明を行ったが、活動内容の枠組み自体は担当職員で固めた上での実施であった。

今後は、当日の運営も含め、企画段階から法人ボランティアの裁量で判断できる事案は法人ボランティアに委ね、自主性や企画力を養成する場となる様にコーディネートしていくことも大事であると感じた。



「事業運営及び活動支援についての心構え」



「ドキドキ わくわく 創作活動」



「ドキドキ わくわく 雪遊び」

【補足資料】 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図

